

水環境国際活動賞（いであ活動賞） (JSWE-IDEA International Activity Award) 授賞に関して

本会では、水環境分野の国際交流・国際協力の促進を目的として、いであ株式会社からのご出捐により、水環境国際招聘賞と水環境国際活動賞を設けております。水環境国際活動賞は本会活動趣旨に沿った優秀な国際的な活動として選定したものを顕彰し、その一部または全部の助成を行う制度です。2021年度は中央大学 西川可穂子氏と愛媛大学 沿岸環境科学研究センター 渡辺幸三氏が受賞されました。なお、次年度の水環境国際活動賞の募集案内は秋頃に本誌会告に掲載する予定です。
(水環境国際活動賞・招聘賞選考委員会)

水環境国際活動賞（いであ活動賞）を受賞して

水環境プラスチック汚染に関するオンライン国際ワークショップの開催

中央大学商学部 西川 可穂子

この度は、水環境国際活動賞（いであ活動賞）を授与していただき、ありがとうございます。いであ株式会社、日本水環境学会の関係者の皆様には厚く御礼を申し上げます。

近年、水環境における大きな課題の一つに海洋プラスチック汚染が挙げられます。今や気候変動と並ぶ環境問題としても知られており、世界中でその汚染の実態や発生源などの解析が進んでいます。海洋プラスチック汚染については、陸域から発生するプラスチックが大きな影響を与えていることが解明されつつありますが、その発生源や拡散経路、調査手法などについて、まだ多くの研究課題に取り組む必要があります。

日本水環境学会でも2020年度よりマイクロプラスチック研究委員会が立ち上がり、広く水圏でのプラスチック汚染問題について研究発表や意見交換を共有できる場ができました。国内外の研究者が積極的に参加し、研究交流と課題解決への議論が活発化することが期待されています。

このような研究交流の場が増えた一方で、去年は想像もしていなかった世界情勢となりました。新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が世界で大流行し、この原稿を書いている時点では、世界で1.3億人を超える人々が感染しています（the Johns Hopkins University Coronavirus Resource Center 4月7日現在）。このため、人の移動が大きく制限される事態となりました。研究環境においても、様々な影響を受けることになりましたが、とくに影響を受けたのは、現地調査を計画していた国際協同研究プロジェクトや国際的な規模の学会やシンポジウムなどです。そこで、COVID-19による感染症対策をしつつも、これらの研究活動を継続できないか模索が始まりました。

すでに、国内学会の多くがそうであるように、国際学会もオンラインで開催され、研究発表の場を確保することに成功しています。オンラインによる研究発表は、従来の対面方式の発表と比較して、コミュニケーションの点でのデメリットが指摘されるところではありますが、研究交流の強力なツールとして発展してきています。デジタルトランスフォーメーション社会の促進も後押しとなり、様々な工夫を凝らすことで効果的な研究交流の場としてさらに成長していくことでしょう。

私達が計画しております「水環境プラスチック汚染に関するオンライン国際ワークショップ」は、プラスチック汚染の課題についてCOVID-19の感染対策をしつつ、世界の人々と研究交流をする場を確保するために計画したものです。日本水環境学会のマイクロプラスチック研究委員会とも連携しながら、人の移動をとまわらない形をとりつつも関心のある若い研究者、専門家やステークホルダーに数多く参加していただき、新たな交流とネットワークの構築ができる機会にさせていただきたいと考えております。ワークショップで共有される様々なプラスチック汚染に関する知見は、感染収束後の研究や国際貢献に役立つものと信じています。水環境国際活動賞の受賞を受け、今後は「水環境プラスチック汚染に関するオンライン国際ワークショップ」の開催を成功させるべく、1月の開催に向けて運営委員一同、しっかりと準備を進めて参ります。海洋プラスチック汚染は、国際的にも関心が高いだけでなく、未来の子どもたちに持続可能な地球を残すために重要な課題です。“Think globally, act locally”の精神でこのワークショップに多くの皆様にご参加いただけますようお願い申し上げます。この度は、誠にありがとうございました。

水環境国際活動賞（いであ活動賞）を受賞して

東南アジアの蚊媒介感染症を制御する水環境管理のための国際協力の促進

愛媛大学沿岸環境科学研究センター 渡辺幸三

このたびは、栄誉ある水環境国際活動賞（いであ活動賞）を授賞いただき、（公社）日本水環境学会ならびに、いであ株式会社の関係各位に心より御礼申し上げます。

受賞対象となった蚊媒介感染症を制御する水環境管理のための国際協力の促進は、水環境分野における取り組みが期待される国際協力の課題の一つと位置付けられます。水環境と蚊媒介感染症は密接に関係しています。例えば、近年の社会変化にともなう水質汚濁の進行や気候変動にともなう洪水頻発化は蚊媒介感染症流行の要因と考えられています。蚊の産卵場や幼虫（ボウフラ）の生息場となる水場の制御や効率的な殺虫剤散布には、蚊の生態を理解する必要があります。

近年、ヒト、環境、動物の各分野の専門家が連携して感染症に対応する考え方「ワンヘルス」が広がっています。しかし、とくに途上国では、ヒト（医師）に比べて、環境や動物を対象とする専門家が圧倒的に足りず、よってデータや知見が不足しています。この欠けたピースを埋める人材育成を進め、東南アジアのワンヘルスを推進する必要があります。例えば、水質・降雨特性に基づいて蚊の生息分布や感染者の時空間分布を予測する機械学習モデル開発などの高度な研究手法は現地研究者には未だ使われておらず、その活用が期待されます。そのためには、高度な研究技術や設備を有する日本からの技術移

転や現地若手研究者・学生のキャパシティー・ビルディングが必要です。

この度賜った助成金は、これらの人材育成に生かすべく、日本（愛媛大学）で開催する国際シンポジウムや現地技術者の技術講習のための海外研究者の日本への招聘に要する旅費の一部として活用させていただければと考えております。国際シンポジウムでは、東南アジアから研究者を招聘し、研究発表と共に、貴重な意見交換の場としたいと考えております。フランスのパスツール研究所などの蚊媒介感染症を制御する水環境管理に関する第一線の研究者らもシンポジウムに招聘することで、ヨーロッパやアフリカにおける先端研究の潮流を東南アジアおよび日本の研究者に対して伝えていただく機会を創出したいと考えております。また、現地技術者の技術講習には、東南アジアの若手研究者を日本に短期間招聘し、水環境および気象データに基づく蚊媒介感染症リスクの予測に必要な機械学習などを活用した最先端モデル解析技術やバイオインフォマティクス解析技術などの高度なデータ解析のための技術的支援を行いたいと考えております。

今後は、水環境国際活動賞の受賞に相応しい国際協力活動が展開できるように努めてまいりたいと思います。このたびは、誠にありがとうございました。